

事務事業事後評価シート[平成29年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	生活環境部環境政策課		■担当係	環境エネルギー係
■評価事業名称	北上ライフスタイルデザインプロジェクト			
■事業開始年度				
■評価事業コード	030200 - 222	■会計区分	一般会計	
■総合計画での位置づけ	■政策	04 美しい環境と心を守り育てるまちづくり		
	■基本施策	01 地球環境保全の推進		
	■施策	03 地球温暖化防止対策の推進		
■事業の類型	05 ソフト事業(任意)	■政策・業務区分	政策	
■法令の根拠区分	法令に特に定めのないもの			
■法令等の名称				
■関連計画の名称				
■事業の目的と概要	気候変動、資源の枯渇、エネルギー不足、人口減少等、今後増加する環境制約に適応した暮らしやまちづくりを実現するため、持続可能で環境負荷が少ない、ライフスタイルの確立と実装を目指す。			

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成29年度事業計画	平成29年度事業量実績
01	北上ライフスタイルデザインプロジェクト	市民	北上ライフスタイルデザインプロジェクト(暮らし方変革実験(展勝地/口内)、北上ライフスタイルの体系化、北上シンポジウム(東北大学主催))	<ul style="list-style-type: none"> ・口内ライフスタイル 口内秘密基地プロジェクト 6/10 大人秘密基地作成開始 7/22、7/28、8/4、8/11 秘密基地活動 8/20 秘密基地完成披露会 木育ワークショップ(全3回) 6/10、8/20、1/11実施 ・展勝地ライフスタイル 活動のための打ち合わせ(次年度活動) 7/28、8/31、11/1、1/22、3/16実施 ・未来の暮らし方を育む泉の創造シンポジウムin北上 東北大学・北上市共催 12/16実施

3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	備考
直接事業費			99	161	
人件費			2,628	4,121	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト			2,727	4,282	

4. 評価指標等の状況

事務事業事後評価シート[平成29年度事業]

指標コード	指標名	26年度	27年度	28年度	29年度	指標の説明
01	職員等によるライフスタイルデザインワークショップ参加者	7人	8人			平成26年度:職員ワークショップ、平成27年度:民間ワークショップ
02	ライフスタイル活動実施回数			1回	7回	平成28年度:口内ライフスタイル活動、29年度:口内ライフスタイル活動・未来の暮らし方を育む泉の創造シンポジウムin北上

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■目標達成状況

- A. 順調
- B. 概ね順調
- C. 遅れている

達成状況の分析

口内ライフスタイル活動やシンポジウムを通じて、地域の資源を生かした北上らしい未来の暮らし方について共有し、理解を深めることができた。

問題点・課題等

環境問題や地球温暖化について理解し、問題意識があっても、暮らし方を変える必要性まで理解を求めることは非常に難しい。

1. 直接的な受益者の範囲

- 不特定多数に及ぶ
- 特定されるが多数に及ぶ
- 特定少数に限定される

2. 国・県・民間との競合関係の有無

- 類似の事業はない
- 類似の事業はあるが競合はない
- 類似の事業があり競合する

3. 事業廃止の影響

- 大きな不利益やリスクが生じる
- ある程度の不利益やリスクが生じる
- 不利益やリスクは小さい

4. 市民生活・企業活動への影響

- 市民生活・企業活動の維持に不可欠
- 市民生活・企業活動の維持の向上に必要
- 市民生活・企業活動の維持の向上への影響は少ない

5. 事業廃止の影響を受ける受益者の割合

- 1. で選択した人の大多数(70%程度)
- 1. で選択した人の半分程度(50%程度)
- 1. で選択した人の少数(30%程度)

6. 事業へのニーズの変化

- ニーズが高まっている
- ニーズは変わらない
- ニーズが低下している又は合致しない

7. 施策の改善需要度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

8. 施策の優先度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

9. 他市町村に比較しての優位性

- 先進的またはユニークな事業である
- 他と同程度の事業である
- 遅れている事業である

10. 実施主体の代替性

- 民間委託等の拡充は難しい
- 民間委託等の拡充が十分に可能
- 全部委託や実施主体の移行が可能

11. 経済性・効率性の向上

- 今以上の効率化や改善は難しい
- 効率化や改善を図ることは十分に可能
- 効率化や改善の余地が大きい

■事業の見直し方策(評価項目2.4の補足説明含む)

環境問題や地球温暖化について必要性が理解されても行動まで変えるには更なる壁があるので、実証実験(体験会)を開催して段階を踏んで進んでいく必要がある。

■今後の方向性

- I. 拡充
- II. 継続
- III. 縮小
- IV. 廃止・休止
- V. 完了